

乳腺の微細な病変を見逃さない ～放射線技師とのディスカッション～

マンモグラフィにて病変がある場合、エコー前にしている工夫。

当院はマンモグラフィとエコーの読影室が同室であり、コミュニケーションがとりやすい環境である。その特性を活かして、マンモグラフィから推定される病変の位置を自作の図面におこして、どのような病変がどこにあるのかをディスカッションしてからエコーに臨んでいる。

技師間にも技能差があり、マンモグラフィの読影が苦手な検査技師や、逆に推定位置を詳細に伝えられない放射線技師もあり、お互いにモヤモヤしながら検査に入っていた場面もあった。技師による知識や技能の差を少なくするために、推定位置の図面を使用することで精度の安定化と検査時の効率化を目指している。

これにより、微細な石灰化病変や淡い病変を見つけることができ乳がんの診断に至った事例がある。図面を描く手間はあるが、慣れると1分もかからず、エコー技師は自信を持って検査に挑めている。

